

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 生命・環境科学部共通研究室

職階 教授

氏名

福井智紀

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任 3年
2. 教育の理念 3年
3. 教育の方法 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組 毎年
7. 指導力向上のための取組 3年
8. 今後の目標 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教職課程専任教員として、中学校理科および高等学校理科・農業の教員免許取得に関する各科目を担当しているほか、教育実習の事前・事後指導や、教員採用に向けたキャリア形成支援など、教員養成課程の全般に係る教育活動に携わっています。さらに、環境科学科における科学技術論など、一部の学科の専門科目や卒業論文指導も担当し、学部・学科における専門教育にも携わっています。全学科で設定されている地球共生論もオムニバスの1回を担当しています。大学院では、環境保健学研究科における授業および研究指導を担当し、修士論文の指導も行っています。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
教育の方法と技術（ICT活用教育を含む）	教職課程	必修	1	26
理科指導法Ⅰ	教職課程	必修	2	15
理科指導法Ⅱ	教職課程	必修	3	23
理科指導法Ⅲ	教職課程	必修	3	23
教育実習指導	教職課程	必修	4	33
教育実習Ⅰ	教職課程	必修	4	33
教育実習Ⅱ	教職課程	必修	4	32
教職実践演習（中・高）	教職課程	必修	4	33
科学技術論	環境科学科	選択	2	46
科学の伝達	動物応用科学科	必修	4	2
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
卒業論文	環境科学科	選択	4	2
科学技術英語	環境科学科	選択	3	1
地球共生論	獣医学科	必修	1	150
地球共生論	獣医保健看護学科	必修	1	80
地球共生論	動物応用科学科	必修	1	150
地球共生論	臨床検査技術学科	必修	1	90
地球共生論	食品生命科学科	必修	1	50
地球共生論	環境科学科	必修	1	80
環境教育学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	7
環境教育学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	1
環境教育学特別実験Ⅱ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	2	1
環境教育学特別演習Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	1
環境教育学特別演習Ⅱ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	2	1
科学者・研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	17
リサーチローテーション	環境科学科	必修	2	80

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教職課程専任教員として、各学科での学修成果を踏まえた、本学の卒業生らしい教員を養成していきたいと考えています。また、教職に就かない学生にとっても、教職課程の学修が生きるよう、念頭においています。授業科目以外でも、教育実習の事前・事後や教育実習中の精神的サポートを含めた支援に、意識的に取り組んでいます。これらを通じて、特に「理科」という教科に自信をもって指導できる学生を、育てていきたいと考えています。さらに、他教科や総合的な学習の時間、特別活動や生徒指導・進路指導、および、教育通信技術（ICT）の活用なども念頭に置いた、より俯瞰的な視点で学校教育に携わることのできる学生を、育てていきたいと考えています。専門科目・卒業論文・修士論文指導を担当している学科においては、学科・研究科の教育理念を念頭におきつつ、将来社会において活躍できるための基礎・基本を形成できるよう、自己の専門領域（科学教育・環境教育・科学技術社会論）を活かした教育研動に尽力していきたいと考えています。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教職課程では、4年間を一貫した視点で考えて、学生の成長を支援しています。長期間同じ顔ぶれのため、マンネリに陥らないよう、理科教育や周辺領域の最新の知見や動向に常に気を配っています。また、理論的な内容から実際の指導場面に関わる具体的な内容まで、様々な興味を惹くトピックを取り上げるよう、授業を見直しながら行っています。実際の授業では、ポイントが整理されたわかりやすい説明を心掛けています。また、実際の指導場面や日常生活の状況とも関連付けた理解が進むよう、映像メディア等の資料を積極的に活用しています。さらに、グループ・ディスカッションや模擬授業など、学生主体の活動を取り入れるように留意して、内容や授業方法を工夫するよう心掛けています。

（1）アクティブラーニングについての取組

有

理科指導法ⅠとⅢでは、学生による模擬授業（学習指導案・授業資料作成等を含む）を全員が実施。教育の方法と技術では、パワーポイントを用いた自己紹介を全員が実施、さらに、板書計画の作成活動、アクティブラーニングに関わる教育方法・技術の解説も実施。教職実践演習では、グループ討論などをほぼ各回で実施、さらに、代表者による模擬授業、附属高校での参観と教諭との質疑応答、招聘現職教諭との質疑応答など、学生主体の活動を豊富に設定。教育実習では、実習自体は各実習校で行うが、それに向けた準備の支援、実習中の訪問、事後指導などを可能な限り実施。研究室における主要な研究テーマとして、学生・院生と共同で、参加型学習のための教材開発や学習支援ツール開発に継続的に取り組んでいる。

(2) ICTの教育活用

有

学生からの提出物、平常点課題、出欠は、AzaMoodleを活用して収集管理。学習指導案の様式など、学生の主体的活動に役立つ資料を適宜アップロード。講義用のパワーポイントは授業前に毎回PDF縮刷形式でアップロード。授業の録画動画を毎回提供。教職課程で設置・管理している電子黒板が9304演習室にあり、授業でも積極的に活用。教職課程の授業科目では、ICTの活用方法や生徒への指導方法について内容として取扱うとともに、情報モラルについても解説。学生による模擬授業では、ICT活用を行うよう指導・支援。卒業論文・修士論文では、個人情報等には配慮しつつ、Googleワークスペースを積極的に活用。研究室・ゼミ室に、基本的なICT環境を積極的に整備。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

例年の授業改善・向上への試行錯誤に加え、主体的な学習を促すための様々な創意工夫を継続。特に、AzaMoodleを積極的に活用し、学生の課題提出や復習が容易になるよう留意。パワーポイントによるスライド提示や、電子黒板、書画カメラなどのICT機器を活用。

(2) 学生の理解度の把握

A

AzaMoodleを活用して毎回課題やテストを実施し、授業時間内での共有やフィードバック。授業における学生の様子を随時観察し、さらに、必要に応じて発問や質疑応答を実施。これらにより、形成的評価のための活動を積極的に実施。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

模擬授業における学習指導案の作成や教材研究を支援するなど一定の取り組みは実施。ただし、自学自習に対する意欲には学生間で差が大きい。夜間の特別課程であること、各学科における授業や研究活動との両立を鑑み、どの程度の負担を求めるのか試行錯誤中。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

授業前後やメール等で積極的にコミュニケーションを図ってきたが、自らは積極的に関わってこない学生に対しての働きかけがまだ不十分。

(5) 双方向授業への工夫

B

教職課程の授業では、グループ活動、AzaMoodleや電子黒板を含むICTの活用などにより、双向性がある程度は実現できている。しかし、各学科での大人数の授業では、一方向的な講義になりやすく、課題として認識している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

一定レベルの評価をいただいていること、教職課程の夜間授業での学生負担増は却って逆効果であることから、不必要的改変をしないで微調整を行うことが肝要だと考えて臨んだ。学習意欲を持続してもらうため、テーマ・意図・目次などを最初に明示したり、途中で課題に取り組ませ、共有の時間を見るなど、単調な構成にならないよう配慮した。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

全般的に出席率や各回の課題達成率は高かったことから、学習意欲の持続・向上につながった。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

一部、出席率や課題達成に不十分な学生も見られたため、情報収集や状況判断を早めに行い、早期の適切な指導につなげたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

教職課程の科目では、例年、学生が主体的に取組む機会を重視している。例えば、理科指導法Ⅰ（2年生）と理科指導法Ⅲ（3年生）では、全員に模擬授業を課し、簡易的な演示実験等や、ICT活用も推奨している。録画データや学生相互のコメントを共有することで、指導技術の自己点検を可能としている。さらに、自己の教職課程での課題を確認する機会を、定期的に設定している。さらに、授業外の経験の機会を提供するため、あざぶ科学教育クラブをサークル（同好会）として設置し、顧問として指導している。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組

に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

最終レポートでは、自分自身の教育実習までの課題や、課題克服の具体的アクション、目標とする理科授業像などを記載してもらっている。それぞれの学生が、授業を通して自分自身の現状を把握し、教職課程における今後の学修への方針を明確にできていることが窺える。授業評価でも、例年比較的高い評価をいただいている。教職課程の学生は教職課程における学修に対して、一定の満足感をもっていることが窺える。教育実習では、実習校から実習生に対する評価をいただき、その中には時に厳しい指摘もあるものの、総じてしっかりと教育実習に対応できていることが記載されている。教員養成として行っている一連の教育活動が、初年次から卒業までの積み重ねにより、一定の成果を上げていることが示されていると考える。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

担当授業等のやむを得ない所用がない限り、基本的に、開催されるFD研究会等には全て参加するようにし、授業や教育活動を見直す機会としています。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期的な目標としては、教職に関わる確かな知識と技術を育成することで、教員採用試験の受験率・合格率を高めていきたいと思います。

長期的には、神奈川県などで教員として実際に活躍できる人材の育成に努めていくとともに、教職に就かない学生においても、教職課程の学修が活きていると将来実感できるような教育活動を構想していきたいと考えています。

さらに、毎年、教職課程修了生による情報交換会を開催するなど、卒業・修了後に教職に就いた学生・院生に対して、フォローや交流の機会を継続的に設定するよう努めています。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

・AzaMoodleにおける授業評価、課題・テスト回答結果、最終試験・レポート結果、その他提出物等

- ・シラバス（授業内容等）
- ・キャンパスプラン（履修状況・成績評価）
- ・講義資料（パワーポイント・レジュメ等）
- ・オンライン授業の録画映像（授業点検資料）
- ・科学教育・環境教育分野における研究論文・報告等（教材研究・成果報告）
- ・科学研究費補助金交付決定通知（科学教育・環境教育分野の教材等の開発）
- ・卒論指導学生が提出した卒業論文要旨・卒業論文（卒論指導成果）
- ・修論指導院生が提出した修士論文（修論指導成果、副指導の場合を含む）